

議事録

1. 件名：「令和元年度核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に係る影響評価手法の精緻化」に係る現地確認
2. 日時： 令和 2 年 1 月 30 日(木) 14:10～17:30
1 月 31 日(金) 9:30～16:30
3. 場所： 株式会社昭和製作所(1 月 30 日)、
三菱重工業株式会社神戸造船所本工場(1 月 30 日)
三菱重工業株式会社総合研究所高砂地区(1 月 31 日)
4. 出席者： 原子力規制庁
長官官房技術基盤グループ 地震・津波研究部門
大橋首席技術研究調査官、北村主任技術研究調査官、永井技術研究調査官、
吉村技術参与(1 月 31 日のみ)

三菱重工業株式会社
パワードメイン 原子力事業部 機器設計部 首席チーム統括 他4名

株式会社昭和製作所
製造部 1 名(1 月 30 日のみ)
5. 要旨：
長官官房技術基盤グループ 地震・津波研究部門では、核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に対する構造健全性評価手法の適用性を確認するため、核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に係る安全研究を、平成 29 年度から令和 2 年度にかけて計画し、実施している。当部門では、本安全研究の一環として、三菱重工業株式会社と請負契約を締結し、「令和元年度核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に係る影響評価手法の精緻化」事業を実施している。
当事業に係る第 1 回現地確認を実施した。内容は下記のとおり。
 - ① 株式会社昭和製作所において衝撃緩衝体用木材及び木材材料試験供試体(木材ブロックの加工・形成状況、加工前の木材ブロック等)の製作状況を確認した。
 - ② 三菱重工業株式会社神戸造船所本工場において、核燃料輸送容器の落下解

析(静解析)結果について確認した。また、今後実施する静解析条件について検討した。

- ③ 三菱重工業株式会社総合研究所高砂地区において、木材材料試験の現地確認を実施した。既に実施した試験結果を踏まえ、載荷終了条件を決定した。さらに、試験時のひずみ計測結果を確認した。供試体内部での局所的なひずみのばらつきが大きいため、全ての供試体について画像相関法で全体的なひずみを計測することとした。

6. その他

特になし